

2011 年度経済地理学会名誉会員候補者

江波戸 昭会員

名誉会員推薦理由

江波戸昭会員は、農業、蚕糸業、生活史、および民族音楽など幅広い分野で多くの研究成果をあげた。これらの業績は、農村地域・都市地域・国民経済のすぐれた経済地理学的分析であるとともに、経済史学との境界領域の研究を深めたという意味でも重要な意義を持つ。

研究業績の第一の領域として、国民経済内部の地域構造の形成・変動過程を対象とした研究があげられる。経済史学の分野で育ちつつあった地域的視点を、経済地理学の立場からさらに鮮明にとらえ、農業生産・地主制・工業の地域性を数量的に分析することによって、日本資本主義発達の各段階における経済の空間的特色を浮かび上がらせた。この領域の主要な成果は、「日本農業の地域分析」（1965年）、「地域構造の史的分析」（1992年）にまとめられている。

第二の領域は、昭和初期まで基幹産業の地位にあった蚕糸業の研究で、「蚕糸業地域の経済地理学的研究」（1969年）に集大成されている。この研究は、詳細な調査によって、製糸経営の地域的基盤、養蚕経営の規模拡大と停滞、製糸業衰退期の農村経済などの農村地域変容を、資本主義発達史のメカニズムと結合させて分析したものである。その充実した内容は、経済史学の分野からも、養蚕業の「富農的発展の可能性の存在とその消滅」（社会経済史学 36-1 書評）を考察した労作として注目された。

第三に、都市を対象とする諸研究がある。東京における市街地形成過程、都市農業の実態、農産物流通の変遷を明らかにした「東京の地域研究（正・続）」（1987年・1997年）、「神田市場史（上・下・結巻）」（1969・70・91年）は、農業・農産物の側面から大都市地域を分析する研究の代表的成果の一つである。また、「郷土誌田園調布」（2000年）や「戦時生活と隣組回覧板」（2001年）は、文化的都市コミュニティの貴重な分析であり、さらに戦時下の日常生活を示す資料の集成としても高い価値を有している。

第四の領域である民族音楽に関しては、世界地理の精密な理解をもとに、「世界の音、民族の音」（1992年）などの著作を通して、音楽文化と地理学を橋渡しする活動を行ってきた。

これらの諸業績によって、2001年に日本自費出版文化賞特別賞、第20回風土研究賞および2002年に日本自費出版文化賞第5回地域文化部門賞を、2003年に日本地理学会賞第1回優秀賞を受賞している。

同会員は、明治大学商学部で研究・教育に従事するとともに、明治大学文学部、東京大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学などにおいても教鞭を執り、多くの人材を育ててきた。さらに、日本語、外国語による教科書の執筆にも携わり、地理教育の推進に尽力した。

同会員は1932年生まれで、本学会創設以来の会員である。役員歴は、幹事11期24年、評議員6期15年、会計監査1期3年に及び、「経済地理学会50年史」編纂委員会委員長も務めるなど、長年にわたって本学会の運営に貢献した。

以上のように、江波戸昭会員が経済地理学研究および本学会に寄与した功績はまことに顕著であり、ここに名誉会員として推薦する。

名誉会員推薦委員会

赤坂暢穂（委員長）、荒木一視、大塚俊幸、高山正樹、千葉昭彦、中川秀一、松原 宏